

1 実施体制

①数理・データサイエンス・AI教育委員会

本学において数理・データサイエンス・AI教育その他情報教育を改善、進化させるための第一次的な組織であり、情報教育の自己点検・評価も行う。

※同委員会発足までは、前身である数理・データサイエンス・AI教育タスクフォースが担当。

②自己点検・評価委員会

教育、研究をはじめとした大学運営全体について自己点検・評価を行うが、その中で本プログラムについても点検・評価が行われる。

2 実施時期

2021年度後期から

2020年2月から、学内において「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」（文部科学省）及び「モデルカリキュラム」（数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム）などを参考に検討を進め、2021年度後期より「情報処理入門」及び「統計学」を対象科目として実施に至る。

3 教育の質のや履修者数向上への工夫

本プログラムの対象科目である「情報処理入門」及び「統計学」は基盤教育科目であり、学部や学科を問わず1年次から履修可能かつ先修条件もないため履修機会が多い。また、時間割上、本プログラムの対象科目と他科目が重複しないよう出来るだけ配慮することで、希望する学生全員が対象科目を履修出来るよう工夫している。履修ガイダンスにおいても可能な限り周知していくこととしている。

また、数理・データサイエンス・AI教育委員会において、授業評価アンケートや担当教員からの意見を踏まえ、授業内容や方法の改善に取り組むこととしている。必要に応じてコマ数の増加や新規科目の設定も検討していく。

2022年度に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に申請予定であり、認定を受けることで更なる履修者数の増加、活性化が見込まれる。

4 学生へのサポート体制

本学の学生は、必ず担任となる教員に履修指導を受ける仕組みとしている。このため、それぞれの学生の履修状況については必ず担任教員が把握しており、履修に関してきめ細やかなアドバイスを行うことができる。更に、対象科目を担当する専任教員のオフィスアワー等により授業外でも対面による学習指導、質問を受付ける機会を確保するとともに、LMS、メールの問い合わせ可能な体制となっている。また、学生の学業成績や履修状況は、LMSにより閲覧が可能なため、教職員がそれらをいつでも把握できる仕組みとなっている。これらの各種制度やシステムを状況に応じて活用することにより学生の学修をサポートしている。